

事務事業名		有償バス運行運営事業				評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	1	地域の特色を活かした快適なまちづくり			担当	担当部	市民生活部	担当課	交通生活課
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり			組織	担当係	公共交通係	担当課長名	菊地 昌之
	施策	2	まちなかの活性化と公共交通網の整備			新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	3	公共交通の利便性の向上			実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	19082	バス事業	1	1	1	有償バス運行運営事業				
	事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S57年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市自家用有償バス条例			
事業区分		市単独事業・国県補助事業		国県補助事業						
事業区分		任意的事業・義務的事業		任意的事業						
事業区分		実施方法		一部委託						
事業区分		事業分類		その他直接サービス提供事業						
事業区分		リーディングプロジェクト		該当なし						
事業区分		市長マニフェスト		3-12						

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)					平成27年度実績(平成27年度に行った主な活動内容)						
基幹線、秋山線、仙波会沢線、野上線、飛駒線、足利線、名水赤見線及び犬伏線の計8路線の運行業務を専門業者に委託して市営バスの運行を行う。					・市営バスの運行業務を専門業者に行わせ、市営バスの運行を行った。						
活動指標					単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)	
市営バス運行路線数					路線	7	8	8	8		
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
①市民 ②市営バス運行業務受託者					対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)
市人口					人	123,182	122,582	121,522	120,683		
市営バス運行業務受託者数					社	1	1	1	1		
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
市営バスの運行が利用者にとって安全で定時性の確保ができるよう市営バス運行業務受託者に行わせる。					成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)
市営バス利用者数					人	115,819	121,292	124,932	130,000		
市営バス事故報告数					件	3	0	3	0		
④結果(どのような結果に結びつきますか?)											
①市民が公共交通を快適に利用できる。 ②公共交通が利用者ニーズに応じ、充実したものになっている。					上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)
市内を運行するバスの利用者数					人	296,233	303,984	305,452	315,000		
市内を運行するバスの路線数					路線	8	9	9	9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円	30,117	24,702	22,346	19,000				
	県支出金	千円	4,343	5,140	7,807	7,000				
	地方債	千円								
	その他	一般会計	千円	35,214	73,548	88,083	96,093			
		その他	千円	680	890	949	648			
	一般財源	千円	20,972	21,644	23,126	22,525				
	事業費計(A)	千円	91,326	125,924	142,311	145,266	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			委託料	91,326	委託料	125,924	委託料	142,311	委託料	145,266
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3			
		のべ業務時間	時間	1,140	1,594	1,570	1,550			
人件費計(B)		千円	4,436	6,282	6,114	6,036	0			
トータルコスト(A)+(B)		千円	95,762	132,206	148,425	151,302	0			

事務事業名	有償バス運行運営事業	担当部	市民生活部	担当課	交通生活課	担当係	公共交通係
-------	------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	民間の路線バス事業の撤退により、町営バスとして旧田沼町では昭和62年1月から、旧葛生町では昭和57年5月から運行することとなったため、この事業を開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	モータリゼーションの進展や地方の過疎化などの社会状況の影響を受けて、市営(町営)バス利用者数は年々減少したが、平成20年10月1日の路線再編後は増加傾向にある。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	平成28年2月定例会の予算審査特別委員会において、運行経費の削減に対する質問があった。

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	・運行上の苦情等に対し、ドライブレコーダーを確認の上、市営バス運行業務受託者とその都度協議・検討を行い、その対応について運転手に対して周知徹底を図った。・運行経費の削減策として、平成28年4月3日より、野上線11便の廃止及び秋山線1便・2便の休日運休を行うこととした。
事業のやり方改善(コストの見直し)	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	市営バスの運行は、公共交通の利便性の向上に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	委ねている	理由・改善案	市営バスの運行は、専門業者に委託している。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	市営バスの利用者にとって安全で定時性の確保ができるよう専門業者に委託しているため、対象と意図は合っている。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	市民からの苦情等に対し、市営バスの運行業務受託者と協議して対応することが市営バスの利用者の利便性の向上につながるため、成果向上の余地はある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名 なし
	* 類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	事業費の削減余地がある	理由・改善案	・利用実績を鑑み、利便性が損なわれない範囲で事業費を削減することができる。 ・バス運行については委託しており、業務所要時間は市で対応しなければならない事項に対するものであり、人件費を削減することは難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	市営バスの利用者から運賃を徴収しており、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 運行形態が道路運送法第78条による自家用有償旅客運送から同法第4条による一般旅客自動車運送事業に切り替わった場合又は市営バスが廃止された場合は、廃止することができる。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性		(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	事業のやり方改善(コストの見直し)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>②</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		①		維持	②		×	低下		×	×	①運行上の改善については、運転手への徹底を図る必要がある。 ②利用実績を把握し、客観的データから運行業務委託料の削減策を講じる。
			コスト																							
		削減	維持	増加																						
成果	向上		①																							
	維持	②		×																						
	低下		×	×																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ①市営バス運行業務受託者とその都度協議・検討を行い、改善策を見出す。 ②利便性を損なわない範囲で運行業務委託料の削減につながる見直し策を見出す。																										